

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272400417		
法人名	社会福祉法人 鶴松会		
事業所名	グループホーム鶴松園		
所在地	〒038-3542 青森県北津軽郡鶴田町大字廻堰字上野尻142		
自己評価作成日	平成26年10月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成26年11月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内にある畑を利用し、旬の野菜を食べて頂いています。作業そのものは職員がすべて行っていますが、簡単な作業(殻から豆を取って貰う等)をお手伝いしていただき、季節感を味わっていただいていると思います。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

敷地から見える岩木山や広大に広がる田んぼなど四季の彩りが感じられる場所に位置しており、窓から外を眺めるだけでも季節を感じられる環境にある。また敷地内では畑に野菜等も植えられ、漬物作り等も一緒に行い出来る事の継続を積極的に取り組んでいる。本体事業所の特別養護老人ホームと連携し、医療・防災のバックアップ体制がとられ、入居者が安心できる様な体制作りをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月1回開催の事業所別の会議で理念について話し合い・確認をとるようにしています。	月1回の会議では、夜勤者以外全員で確認する機会を設けている。	理念を確認するだけではなく、地域密着型サービスの意義をふまえ、理念を共有する事でスタッフが日々の実践で共同できる様な取り組みに期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として具体的に行っている事はありません。	地域活動に出る事は無いが、近くの小学校が林檎を持って来てくれたり、保育園児が訪れてくれたりしている。また、地域住民が毎年積極的に敷地内の草取りに来てくれる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム便りや鶴松園たよりを通じ、入居者の様子や豆知識のような情報も伝えています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は事業計画に2ヶ月に1回の開催を計画し、現在も実施しています。会議では利用者の様子や活動報告をし話し合いをしています。	会議では色々な話題を提供し、民生委員・地域包括支援センター・行政・家族・居宅介護支援事業所の介護支援専門員のメンバーで話し合い業務に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の会議内容を考えている中で、役場担当者や消防署等確認を取ったところ、連絡体制として実際使えると思っていた連絡網が消滅していたことがわかり、改めて協力していくことを確認できました。	地域包括支援センター主催の学習会に参加し、連携している。また、昔あった行政・警察・消防との連絡網が機能していない事を確認できたことで、今後の連携を再確認する機会ともなった。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会(全体会)で確認しました。(8/26) また、夜間しか玄関に施錠していません。	ベッド柵が必要な場合は、記録に残し行っている。出来るだけ利用者の行動は見守りで対応されている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会(全体会)で確認しました。(9/26)			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人で作成した指針を熟読するよう指導を受けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明しています。実際には6月より認知症専門ケア加算(Ⅰ)をいただくことになり、ご家族に説明しました。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族も参加し意見を聴いています。また面会時には職員が積極的に話しかけ要望を聞くようにしています。	家族から出た、運営推進会議での意見として、介護方法についての相談等から、業務に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見を言っています。	職員から介護用のベッドの要望等があり購入したり、業務内容の変更により業務時間を変えたりと意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇や希望の日に休みが取れるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回開催の会議で課題を決め、発表する機会を設け向上していけるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	併設の特養やデイサービス職員との打ち合わせや復命発表を通じ、グループホームでのサービス向上に反映させています。(例えば水分補給)		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際に持ち込む家財道具や困っていることについて、出来るだけ本人や家族の意向を聞いて対応しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同じで話しやすい・聞きやすいような心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人、担当ケアマネ等とお話をし対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜の下ごしらえや洗濯たたみ等「できる」役割を担っていただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員の出来る事にも限界を感じています。家族でなければならないことも念頭に置き、ご家族と共にご本人を支えていこう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚等に電話をかけたり、なじみの美容院を利用したりして支援しています。	併設のデイサービスに馴染みの方が来ているので、グループホームの各居室で面会されている。また、トウモロコシを買いに1時間かけて行ったりもしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格と認知症が影響しこのままだと孤立してしまいそうな方がいて、家族と相談し精神科受診し治療を始めました。結果他者とのトラブルも少なくなり人間関係がいくらかでも良好になりました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養へ異動された方のご家族がグループホームによってくれたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしに対する要望などは意思確認できる方は把握できています。	センター方式を活用し各担当が聞き取り、プランに活かしている。また、意思表示が困難な場合は、過去の本人の暮らしを考えながら、なりたい生活を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	上記に同じ。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	大体の一人ひとりの把握は出来ています。その中で持っている力を発揮できればと日々努力中です。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員にはアセスメントを担当してもらい意見を抽出し、家族には面会時現状報告し意向を聞いてケアプランにつなげるようにしています。	センター方式を活用し、面会時に家族から話を聞いたり、各担当と話をしながらプランに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録をしていくよう確認しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設(特養・デイ)で必要時対応してもらっています。今年度は重度化により入浴での協力を受けることが多くなりました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を利用する意味で理美容院を利用していますが、本人の気持ちと体調が合わず利用が難しくなっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族に相談し適切な医療を受けられるよう、情報提供しスムーズに診療が受けられるようにしています。	入院前からのかかりつけ医に受診されている方が殆んどで、通院の介助はグループホームで行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームに看護師が配置されていないこともあり、併設特養の看護師よりアドバイスをもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	これといった関係づくりをしていませんが、入院した場合は連携を強めていきたいと思っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	これからなるであろう状況・状態についてご家族に推測や説明をして、次の段階（特養入所等）へと進めています。また、居宅・特養とも相談しながら進めています。	併設の特別養護老人ホームと協力し情報共有しているが、入居時にグループホームで出来る事を説明されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時連絡系統に目を通し、初期対応の確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年1回特養と合同で夜間避難訓練を実施しています。	災害時の備蓄は併設の特別養護老人ホームと協力して行っている。合同で通報・消火・避難訓練を行っている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の何気ない対応(点眼等)に苦情があったりします。出来るだけ苦情が出ないよう気を付けるようにしています。	一人ひとりの個性を大切にしながら声のトーンや声掛けの方法を注意して行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴するかしないか自己決定している方がいますが、本人の気持ちに合わせていたら1週間入浴も着替えもしない時がありました。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	上記の方ですがその方のペースに合わせてたら入浴の声がけから入浴終わり脱衣場を出るまで2時間近くかかりました。極端な例ですが出来るだけ希望に添えるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	多少着こなしのおかしさを感じる時もありますが、目をつぶっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理はほとんど職員が行っていますが、山菜の皮むきや食用菊の下ごしらえなど手伝っていただき、季節を感じていただいています。	目の前の敷地で栽培した野菜で、漬物を作ったり食事の下ごしらえを利用者と共に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お粥の量や食事形態等その方に合わせて提供しています。9月頃からはお粥のミキサーも提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員ではありませんが、毎食後声がけし口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄をめざしトイレ誘導しています。また日中と夜間で尿取りを替えたりしています。	排泄パターン表を付けて誘導したり、夜はトレーニングパンツ昼は綿パンツの対応や水分量での下剤を使わない対応で自立に向けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を付け排便間隔を把握すると共に、水分摂取量の確認や運動するようにも努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	前述した通り入居者の相性や個々のペースに配慮し支援しています。	月・水・金曜で朝から夕方にかけて一人ひとり行っている。今時期は林檎風呂などで楽しんだりしている。夏場はシャワー浴の対応もされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に灯りに気を配り、ここに合わせた明るさにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	自分は1人で薬が飲めると話す入居者の足元によく錠剤が落ちていることもあり、出来る限り口に入れるまで確認・もしくは確実に口に入るよう薬袋の切り方を工夫したり対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族から直接情報として聞いたわけではありませんが、面会時欠かさずおやつを持ってきたりご本人もおやつを食べるので、元々食べる方だと推測し好むお菓子など数種類買っておいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	併設のデイサービスと比較し外出する回数が少ないと不満も聞かれますが、出来るだけ希望に応えるように努めています。	広い敷地内の散歩や近所の自宅を見に行かれたり、買物等は職員や時間の調整を行い出来る限り出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設に入居された事でお金の所持を制限しないようにしています。物盗られ妄想につながることも考えられますが、ここに合わせて自己管理していただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の要望に沿って対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じてもらえるよう装飾には気を配っています。最近は車椅子の方が増え、ご本人も職員も過ごしやすく活動しやすい空間作りに努めています。	明るさのある開放的な空間で、幼稚にならない飾り付けで季節感を出されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全室個室なので、気の合う方の部屋へ行き語らいを楽しんでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	もちろんそのようにしています。	出来るだけ好きな物を自宅から持って来て頂き、本人の意向に添った居室作りをされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間トイレの灯りをつけて場所が分かるようにしています。		